
今日のみ言葉 196 2010.10.15

「力と慈しみは神のもの」

(詩篇 62 の 8-13 より)

力と頼み、避けどころとする岩は神のもとにある。

どのような時にも神に信頼し

御前に心を注ぎ出せ。

神はわたしたちの避けどころ。...

力は神のものであり

慈しみは、わたしの主よ、あなたのものである。(詩篇 62 の 8-13 より)

...God is my mighty rock, my refuge.

Trust in him at all times, pour out your hearts to him, for God is our refuge.

Strength belongs to God,

and steadfast love belongs to you, O Lord.

この世のあらゆる問題は、実は力不足から生じる。仕事があまくできない、続かないといったことだけでない。真実が言えなくて嘘を言ってしまうのは真実を語る力がなく、弱い人、あるいは敵対する人に愛を注がないのは、愛する力がないからである。人からの中傷や悪口につぶされそうになり、あるいは憎しみを抱いたり仕返ししたりするのもまたそれを忍耐をもって受け止める力もなく、またそのような悪しき心の人たちのために祈る力がない、愛がないからである。

このように、どんな人でも、欠けているもの、それは力である。いかなる権力者であっても、力不足を感じる。それゆえに、その権力者への批判を抑えようとする。ときには武力で弾圧する。かつて江戸時代に、キリスト教徒たちに過酷な迫害をした支配者たちは、キリスト教の力を恐れたからである。自分たちの力が弱くて、キリスト教の真理の力に立ち向かえないと知ったからこそ、鎖国までして、キリスト教の力が入ってくるのを全力で防ごうとした。

子供から老人、そして死に近づいた重い病気の人まで、そして何も持たない人から金や権力を持つ者まで、だれもが恐れているのは力を失うことである。

そして老年になるにつれて、人は病気になったり、体力や気力などにおいて、弱さと直面し、また元気であっても事故や人間関係が壊れたりして、力不足をだれもが思い知らされるときが来る。

こうしたあらゆる人の、いかなる状況における力不足をも、根本から救って下さるのが、聖書に記されている神であり、キリストである。

「弱っている人、疲れた人はだれでも私のもとにきなさい。休ませてあげよう。」と主イエスは万人に呼びかけておられる。

私たちが、力なきゆえに、弱り、魂も疲れ果ててどうすることもできない状況に追い詰められたとき、なお私たちがすすることができ、しっかりと立つことができるのは、不動の岩なる神がいて下さるからであり、キリスト

が私たちをその愛をもって招いて下さっているからである。

そして私たちがその呼びかけに信頼して、主のもとに行くときには、主はその慈しみのゆえに新たな力を与え、魂の平和を与えて下さる。



ミヤマリンドウ

月山(山形県 標高 984m) 2010.7.30

秋の代表的な花の一つは、リンドウです。この花は、今年7月に北海道の聖書集会からの帰途、少し時間がとれたので、月山の植物を調べに登ったときのものです。

リンドウは、多くの山歩きを好む人は、秋の山の喜びの一つと思われませんが、私もとくに京都の由良川源流にて、深く澄んだ青いリンドウと出会ったのがとくに印象的で、もうそれは 45 年ほども昔のことですが、いまもその有り様が浮かんできます。

リンドウの仲間には、いままでに実際に私

が山で見たのは、アサマリンドウ、リンドウ、フデリンドウ、ハルリンドウ、ツルリンドウなどいろいろあります。この写真のミヤマリンドウは、北海道や中部地方以北の高山帯に自生するものなので、徳島県では見たことのないものでした。草丈は 5~10cm 程度、葉は長さ1cm前後の小さな植物です。5枚の花びらの間に、先のとがったやや小さくて細い花びらがあって、10 枚の花びらのように見えます。

宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」にも、次のような描写があります。

「ああ、りんどうの花が咲いている。もうすっかり秋だねえ」カムパネルラが、窓の外を指さして言いました。

線路のへりになったみじかい芝草の中に、月長石(げっちょうせき)でも刻まれたような、すばらしい紫のりんどうの花が咲いていました。…

カムパネルラが、そう言ってしまうかしまわないうち、次のりんどうの花が、いっぱい光って過ぎて行きました。

と思ったら、もう次から次から、たくさんのきいろな底をもったりんどうの花のコップが、湧くように、雨のように、目の前を通り、三角標の列は、けむるように燃えるように、いよいよ光って立ったのです。(6、銀河ステーション より)

こうした描写は、宮沢賢治も、北国のリンドウ、とくにその紫がかった青色が彼の心に刻まれていたのがうかがえるのです。

北国の厳しい寒さにも耐え、短い夏にほかのリンドウとはちがった、独自の花のすがたを見せるこのミヤマ

リンドウは、小さく目立たないけれども、厳しい風雪に耐える力を与えられているのです。私たちもまた、弱く小さなものであっても、神に結びつくときには、本来では有り得ないような力をいただくことを思わせてくれます。(文、写真とも T.YOSHIMURA) (文、写真とも T.YOSHIMURA)
